

# 令和7年度第2学年修学旅行結団式 挨拶

令和7年12月8日（月）

いよいよ明日12月9日（火）から12日（金）まで、学校生活において重要な特別活動の一つであり、皆さんのが心待ちにしていた修学旅行が催行されます。

現段階の天気予報を踏まえると、旅行中の気象条件は概ね良好で、船便も含め予定どおり行程を進めることができるものと思われます。

さて、早速ですが、その修学旅行に際し、心に留めて置きたいことを三点伝えます。

第一に、感謝の気持ちを持ち続けるということです。修学旅行に際しては、保護者による多額の出資を伴っているという点は想像するに難くなく捉えていることと思料します。併せて、令和初年のコロナ禍においては、旅行の実施の見合わせや、あるいは目的地を変更した等の対応を講じたことも耳にしたことがあると思います。さらに、修学旅行は、旅行の企画及び添乗等を担ってくださる旅行代理店はもちろんのこと、交通事業者や宿泊・飲食施設等の切れ目のない協力や連携により成り立っています。出発前後あるいは旅行において、保護者をはじめ、関係する様々な分野の方々に対して、気持ちのこもった謝意を示してください。

第二に、自己管理能力を高める機会であるということです。

文部科学省が示した「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」において、「自己理解・自己管理能力」は基礎的・汎用的な能力の一つとして捉えられています。本校を卒業した直後の進路は様々だと思われますが、成人として独り立ちしていく

ためには、普段の学校生活・家庭生活とは異なる環境に身を置く中で、自分自身のことを深く知り、状況を見極めて自身を調整していく力を培っていくことが求められています。また、万一、事故や心身の不調等が生じると、級友や旅行の行程にも影響を及ぼしかねません。健康管理はもちろんのこと、周囲への気配りや感情のコントロールにより一層努めていくことを期待します。

第三に、出発から帰着するまでの全ての行程及び時間が「学び」の場であるということです。

修学旅行の「修学」とは、国語辞書を引くと「学問を修め身に付けること、学んで知識を得ること」などと記されています。行程中の体験学習や史蹟・名勝等の見学に加え班別研修等はもちろんのこと、日常では目にすることができない平日の、それも大都市部の市井の状況のほか、来日している外国人の行動の様子、航空機から目にする土地活用の状況、地下鉄等の公共交通機関の利用方法、大阪市内を無料の「渡船」を使って移動し訪れるユニバーサルスタジオジャパン（U S J）での活動、さらには寝食を共にすることで観察できる友人の優れた習慣等、枚挙に暇がないと考えられます。旅行行程のあらゆる場面において、どのような視点から学ぶべきことを見出していけばよいのか、着眼点はパブリックワークを通して取り組んだ、観光、環境、国際理解等を切り口とする探究的な学びによって身に付けているのではないでしょうか。

最後に、一人一人の規律ある行動により、4日間の研修が深まり、終了後に学びに向かう姿勢をより一層高め、楽しかったと回顧できる修学旅行となることを祈念し、挨拶とします。